

# 沖縄キリスト教短期大学報

那覇市首里当蔵町3-6-1  
 沖縄キリスト教短期大学  
 電話 32-5161  
 発行人 金城重明  
 編集人 学報編集委員会  
 印刷所 協栄印刷株式会社  
 電話 33-4853

政治的には、未だ皆って経験しなかつた困難に逢着してあり、更にキリスト教主義大学としての根本理念が、今日程厳しく問われている時代もない。我々はこれらの問題を、全学的課題として、大学の生命の問題として、主体的実行的に受けとめなければならぬ。凡ゆる苦難や危機を、再生への関門、新しい歴史の創造のモメントとして受けとめ得るのは、キリストの苦難及び死と復活を経験せしめられてゐる私共の特権であろう。

大学運営にとって財政危機が深刻な問題であることは、論を待たずして明白である。然し乍ら、真の危機は、この様な量的側面にある事を見逃がしてはならない。この質的側面とは、大学の原点たる理念であり、単なる知的技術活動を越えた精神的なものである。「科学は自己目的ではなく、超越としての一者が科学を間接に指導する」とヤスパースが、大学の理念について述べている事は、その点を指すと思う。

ここで注意すべき事は、アカデ

ミツクな側面と精神的側面が、二元的に把握されてはならないと云うことである。その事はキリスト教主義大学で暫々問題になる、信仰と学問、科学と宗教の關係についても当はまるのである。学内で時々耳にする「交わり」か「学問」かと言ふ論議が、若し二者択一の発想に基づくものであるならば、問題なのである。

本短大が拠って立っている原点はキリストの福音である。最近「キリスト教主義」が批判の対象になつてゐるが、若しこの「主義」が、意識的の或は無意識的に、一種の相対化された外的規制原理になり下つてゐるならば、最早それは力と意味を喪失した形骸化されたキリスト教でしかない。

そこには真の自由はない。

キリストの福音は、人間の自由の源泉であり、最後の皆なのである。真理そのものであるイエスは「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」と言われた。従つて私共に取つて、信教の自由も学問の自由も、この確固たる深みから進み出るのである。そして如何なる権力もイデオロギーも、我々の信仰や学問を規制したり、支配したりする事は断じて許されない。ここでは学問の自律が破壊されず保たれている。深い次元に於いて、人間に与えられた可能性としての自律は、相対を越えた真なるものによつて完成する。こ

れがテイリッヒの言う神律なのである。

福音は自由の誓だと先に述べたが、自由は二つのダイメンションに於いて考えられる。一つは「...からの自由」であり、他は「...への自由」である。「...からの自由」とは、政治的、経済的、社会的圧迫、拘束からの解放としての自由であり、「...への自由」とは、仕える自由、自らを与へ捧げて行く自由である。後者は優れて倫理的宗教的価値を持つものである。

本短大の存立理由は「キリストの精神に従つて学生を教育し、社会に有用なる人物を養成する」(目的) ことにある。然し社会に有用なる人物とは、社会の低次元に於ける欲求に無批判に応える人間のことはない。すぐに役に立つ人間は、真の意味に於いて役に立たない人間でしかない。大学はすぐに役立つ人間を、安直に製造する工場ではない。大学に失われなければならないのは、社会に於ける精神としての指導性なのである。それは批判的精神と創造的力だと思ふ。聖書の用語を用いれば、キリスト教大学で学ぶ者には、社会に対して預言者の見張りの役と、祭司的執成しの務めが課せられてゐる。従つて学生諸君が、問題提起をすると共に、隣人と世界の課題や重荷を共に担つて行ける人間になる事を期待するものである。他者の重荷を自らの重荷として背負うと言ふ事は、苦難の僕キリストの力を受けずしては不可能なのである。私も微力ながら学長として与えられた重責を定うて行きたい。

此の度の金城重明先生の本短大第三代目の学長御就任は、短大の歴史に一つの区切りをつける意味を持つものと思ひます。平良前学長は、初代学長の仲里先生の後を受け、九年余にわたつて本短大の育成に務められました。その間に日本基督教団と本短大の設立母体である沖縄キリスト教団との合同、さらに沖縄の日本復帰という激動する戦後史の中で、私学として、又キリスト教の理念に基づき大学としての組織づくりと教授陣の強化に努められた功績は大きいと思ひます。さて、第三代目学長就任に当り、私は日本基督教団沖縄教区の側から、直接関りのある二、三の点について要望したいと思ひます。

第一の点は、健学の精神に立却しつづ教団合同の契機となつた「第二次大戦下に於ける戦争責任についての告白」を踏まえたキリスト教主義大学としての理念の確立、第二の点は、本学と沖縄教区との關係の明確化(沖縄教区との対話を通して)。第三の点は、本学をキリスト者と非キリスト者とが平等の立場で学問的に対話のできる場にしていただきたいのであります。

本大学が新学長を中心に、私学として県下に於ける唯一のキリスト教主義大学として、ユニークな人材を生み出す学問の府として、発展されるよう希望いたします。

## 学長に就任して

金城重明



今沖縄キリスト教短大は、大きな歴史的岐路に立たされてゐる。財

## (冥) (想)

主よ  
 キリストの名を冠せられた学び舎  
 キリストの名のみが文字として  
 呼び名として 空しくひびく学び舎  
 そこへ  
 カオスとしかいいようのない社会から  
 学ぶ事への意欲も、将来への夢も、  
 無に等しい状態に集まって来たわたしたち  
 よろこびやチャレンジのないままで  
 くり返される学びの業  
 救いようのない悪循環の中で  
 空しくうごめく人又人  
 混沌と絶望のみが「有る」ように映る  
 わたしたちの営み、にもかかわらず  
 「有って有る」(出エジプト3の14)  
 「理道であり、真であり、命である」  
 (ヨハネ14の6) あなたは厳然として

この学び舎及びそこへ集められた者たちの中で働きたもう。  
 故に  
 わたしたちの新しい可能性があなたの「有る」ということの中にかくされてあり、学びの業における新しいチャレンジが「真理である」あなたを探求する事の中にひめられてあり  
 将来への夢が「道である」あなたの中においてのみ花開き  
 若い命の躍動が「命である」あなたにおいてのみ継続されることを思い感謝せずにはおれません。  
 願わくば この学び舎の建学の精神が今一度確認され、キリストの名が文学として、呼び名として空しく「有る」のではなく、あなたの業の継続の印である事を知らしめ、たしかめさせてください。そして 主よ  
 わたしたちに「若い」と云う事の

真の意味をお示しください。  
 今与えられているこのよき機会にわたしたちのなし得る事が何であるかなさねばならぬことが何であるかははっきりと示してください。そしてなすべき事、なし得る事を「若さ」の故に、勇氣と決断とをもってなしおせる者としてください。  
 混沌と対立、自己中心性のうず巻く社会の中へ  
 判断力と洞察力、意欲と活気とをもつて飛び込んで行く者に、わたしたちをつくりかえてください。その原動力が「キリスト教短大」での有形、無形のあなたとの接触を通して与えられますように。あなたが今に至るまで、具体的にわたしたちの中で、働いてくださることを信じて  
 アーメン  
 (山里勝一 糸満教会牧師)

## 新役員紹介

- 理事長 花城秀樹  
 理事 瀨底正一 沖縄キリスト大学院  
 副理事長 牧野博嗣 牧野博嗣法律事務所  
 理事 金城重明 本短期大学  
 小橋川寛  
 松田定雄  
 神山繁実 日基督教団沖縄教区  
 知念一郎 沖縄YMCA  
 金城誠昭 日基督教団名護伝道所  
 後援会  
 会長 松岡政保 沖縄電力  
 副会長 名城誠明 琉球大学  
 前里光信 田崎病院  
 同窓会  
 会長 花城秀樹(十三期)  
 副会長 宮里愛子(十三期)  
 書記 宮里政憲(十四期)  
 会計 仲村正隆(十四期)  
 ◇◇学内人事◇◇  
 学長 金城重明  
 部長 小橋川寛  
 教務部長 比嘉盛二郎  
 学生部長 漢那憲治  
 図書館長 松田定雄  
 宗教主任 比嘉健次郎  
 英語科長 遠藤久江  
 保育科長 漢那憲治(代行)  
 一般教育主任 漢那憲治(代行)

## 同窓会だより

会長 花城 秀樹

はじめに卒業生同志の新婚カップル誕生報告、話題の主は十四期の宮里政憲君と新城洋子さんのカップルが六月に、続いて七月に具志陽二君と十五期の高江洲須摩子さんのカップルが誕生、まずはおめでとう。

九月十九日、七期卒業の大井学君、テノールリサイタルを開く、沖縄を代表する唯一(?)の音楽家から世界へと大いに頑張つてもらいたい。

最新の情報ではこの二点であるが、同窓会のメンバーが各界で活躍している話によく耳にするので、我々後輩もうれしく思っている。同窓会も今年卒業の十七期生を迎えて、一千余名の大世帯になり、大先輩達とのコミュニケーションが少いので、再来年の本短大の創立二十周年を記念して盛大な同窓会を開きたいと思つております。それも、先輩達やこれから同窓会メンバーになる後輩たちも協力して、我々のすばらしい同窓会にしたいと念願しております。

## 編集後記

今秋は学長交代があり、学報はその特集号のような形になりました。新学長金城重明先生の前途を祝し、また前学長平良修先生に深く感謝の意を表明致したいと思ひます。新校舎も完成近く、再来年は創立二〇周年を迎えようとしております。学報編集委員も交代しました。引き続きよろしくお願ひします。(H)

## 一九七六年度 学生募集要項

- 一、募集人員  
英語科 約一〇〇名  
保育科 約 五〇名
- 二、願書受付期間  
一九七六年二月九日(月)～  
二月二十三日(水)  
午前九時三〇分～午後四時  
三〇分(月～土)
- 三、試験日  
一九七六年三月八日(月)、  
九日(火) 本短大にて
- 四、試験科目  
現代国語・小論文・社会(倫社が政経を選択)・英語・ヒヤリング(英語科のみ) 歌唱(保育科のみ)
- 五、提出書類及び受験料  
(イ)入学願書(本短大所定用紙)  
(ロ)調査書(出身学校所定用紙)  
(ハ)健康診断書(一九七三年三月以前の卒業者のみ必要)  
(ニ)戸籍抄本又は住民票  
(ヘ)出身学校の卒業証明書  
(コ)受験料 八千円
- 六、学費及び諸納入金  
(イ)入学金 八万円(入学時)  
(ロ)授業料 十二万円(年額)  
(ハ)施設充実費 六万円(々)  
(ニ)維持費 一万円(々)  
(ヘ)後援会費 三千五百円(々)  
(コ)実習費 実費  
※(ロ)～(ニ)は前後期に分けて半額づつ分割支払いもできます。

## 祝 辞

日本基督教団  
 沖縄教区総会議長  
 神山 繁実

